9/16 朝日

高浜原発2号機 再稼働

40年超3基目 依存強まる政権

関西電力は15日、運転開始から47年が過ぎ、国内で2番目に古い高浜原発2号機（福井県）を再稼働させた。原発の運転期間は原則40年で、審査を経て60年まで延長できる。40年を超えて動くのは高浜2号機で3基目。さらに4基が審査中で、原発活用を進める岸田政権の下、古い原発への依存がより強まりそうだ。

▼3面＝原則形骸化

15日午後3時、核分裂を抑える制御棒の引き抜き作業が始まり、原子炉が起動した。10月16日に営業運転に入る計画だ。国内の原発33基のうち、これで12基が稼働した。

高浜2号機は2011年11月に定期検査に入り、再稼働は約11年10カ月ぶりになる。

関電は7基の原発を持ち、すべて福井県内にある。今回の再稼働で、定期検査中の大飯4号機をのぞく6基が動く。原発の稼働率が上がることで、24年3月期は過去最高の経常利益を見込む。

国内の原発33基のうち、21基は運転開始から30年を超えている。中でも、関電の高浜2号機、高浜1号機（運転開始から48年）、美浜3号機（46年）の3基は40年超の老朽原発だ。また、40年超への延長について、全国ではほかに1基がすでに認められ、4基が審査を受けている。古い原発の安全性については、住民には不安感も残る。鹿児島県では、住民団体が運転延長の是非を問う住民投票の準備を進めている。（佐藤常敬、西村宏治）